

平成30年度「みえ高校生県議会」質問内容と答弁の概要(平成30年8月21日開催)

戦略企画雇用経済常任委員会関係分

※答弁の概要には現状説明の部分は省略しています。

学校名	質問項目等	今後の対応等に関する答弁の概要	答弁した委員長
四日市南高校	○観光資源の持続的な経済活用について 観光客を持続的に増加させるための広報宣伝活動が不足していることについて、どの程度把握していて、どのような対策をとっていくのか。	・三重県は公式の観光サイト「観光みえ」を作っているが、ここに四日市のプラネタリウムは連携はされておらず、ご指摘のようにギネスにも載っているプラネタリウムの宣伝、こういうことにしっかりと取り組んでいきたいと思っている。	芳野委員長 (戦略企画雇用経済)
	観光客を持続的に増加させるための交通の利便性で問題があるが、どの程度把握していて、どのような対策をとっていくのか。	・リニア中央新幹線が東京名古屋間で2027年に先行開業され、2037年には大阪までのびて、この三重県にもリニアの駅が開設される予定になっている。そうしたことも調査、研究を行って、観光、産業をはじめとする様々な分野で公共交通の波及効果を探っていきたいと思っている。	芳野委員長 (戦略企画雇用経済)
津高校	○三重県における国際交流の推進について JETプログラムによるALTの働き方について長期的なこよを見据えた工夫の余地があるのではないか。	・制度自体の仕組みでは5年間となっているので、5年間ずっと続けてもらえるような取組が必要かと思っている。 ・5年の期間を終えて人がかわっていくというも、国際交流でのいろいろな方々との交流という部分では効果的だと思うので、この5年間に有効に使えるような取組をしていきたいと思っている。	芳野委員長 (戦略企画雇用経済)
	JETプログラムによるALTの数を増やせないのか。	・ALTの増員についてもしっかりと県としても取り組んでいきたいと思っている。 ・14校掛け持ちですとか、いくつかの掛け持ちをしているALTさんもいると思うので、質の向上というのもしっかりと図っていききたいと思っている。	芳野委員長 (戦略企画雇用経済)
	JETプログラム参加者をもう少し多くの国から招致できないのか。	・全国的に要望いただくのは英語の授業で使われるので英語圏の12か国からくる人が一番多い。三重県はその英語圏の12か国の中の11か国の人をALTとして配置しているので、その中でしっかりとそれぞれの地域の特性を生かした英語教育をしてもらおうと思っている。	芳野委員長 (戦略企画雇用経済)

学校名	質問項目等	今後の対応等に関する答弁の概要	答弁した委員長
セントヨゼフ女子学園高校	<p>○外国人の受け入れについて</p> <p>地方創生の視点で外国人を受け入れることについて、どのような対策をとっているか。</p>	<p>・例えば病院に行った時の言葉が通じないための医療通訳の育成、配置や災害時の支援体制の整備、また消費者被害の消費者犯罪の防止事業など外国人住民の安全で安心な生活への支援を行っている。これから国の方でも制度が大きく変わる可能性があり、県としてもそういう国の制度にのっとって、また適切な対応をしていきたいと思っている。</p>	<p>芳野委員長 (戦略企画雇用経済)</p>
	<p>異文化との交流を活かして、新たな観光資源を生み出すのはかなり長期的な視点が必要だが可能と考えるか。</p>	<p>・観光事業という側面も、確かに考えていけるのかなと思っており、永住者の外国人の皆さんと観光者として来られる外国人、両方にとって訪れやすい三重県をやっていくために、しっかりと取り組んでいきたいと思っている。</p>	<p>芳野委員長 (戦略企画雇用経済)</p>
津田学園高校	<p>○三重県南部の人口減少に対する取り組みについて</p> <p>県南部の人口減少対策について、県の取組成果と今後の展望について伺いたい。</p>	<p>・移住の促進を目的とした「暮らしやすくなる取組」を進めるほか、集客交流等による産業振興を図る「住み続けやすくなる取組」、高校生の郷土への愛着を高めたり、南部地域の仕事と暮らしを知るインターンシップを促進するなどの「戻りやすくなる取組」を同時に進めることが重要だと考えている。</p>	<p>服部委員長 (総務地域連携)</p>
津西高校	<p>○自動車の利用とCO2削減について</p> <p>公共発電自転車の開発と普及によりCO2の削減ができると思うが、いかがか。</p>	<p>・現在、自転車による発電はシンボリックな取組の一つに留まっているところなので、大規模発電による電気の大量消費から身近な小型発電による省エネへと県民意識の転換を促すことと併せて研究していきたいと考えている。</p>	<p>廣委員長 (環境生活農林水産)</p>